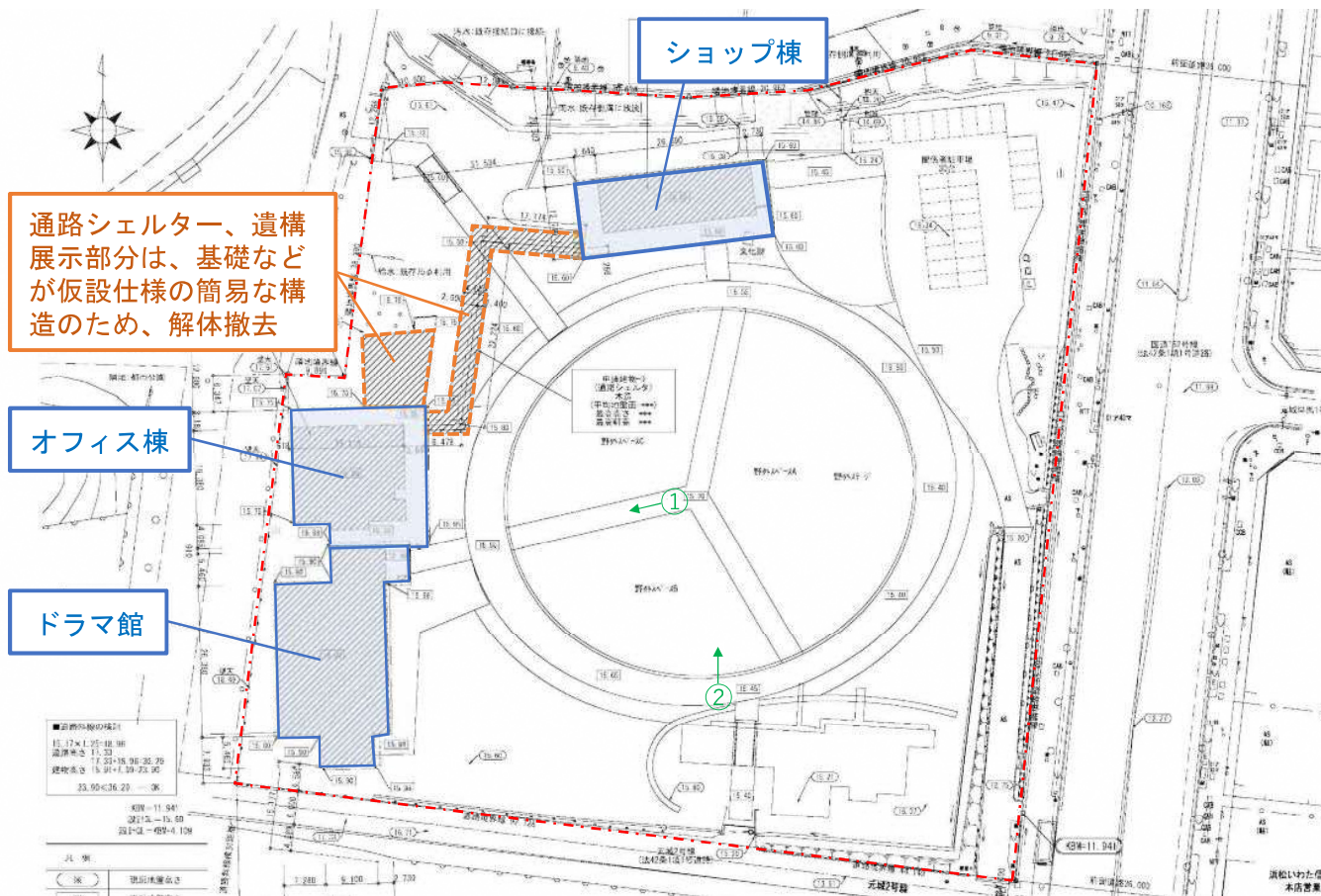


(1) 施設の現状について

ドラマ館、オフィス棟、ショップ棟の再利用を検討



① 左:ドラマ館 右:オフィス棟



② 左:通路シェルター 右:ショップ棟

本資料は、浜松市からの委託に基づき、日本設計・乃村工務社共同企業体が生産浜松市に提供したものです。本資料には、第三者の著作物が含まれることがありますが、浜松市は、著作権法第30条の3の規定に従い、著作権者の許諾又は裁定を受けて当該著作物を利用しようとしており、検討の過程における利用に供することを目的とし、かつ、浜松市における本件の担当者の内部利用である場合には、本資料を利用することができます。浜松市においては、本資料について当該目的以外の利用その他開示・配布等を行うことのないよう、十分に注意します。また、最終的に当該著作物を利用する場合には、必要に応じて著作権者の許諾又は裁定を受けた上で利用します。

(2) 施設計画の考え方について

施設計画における条件や課題について、①～④は建築物、⑤～⑧は敷地に関する事項として整理しました。

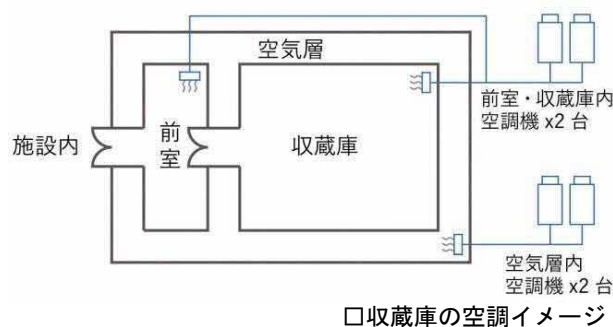
①既存建築物の活用について

- ・大河ドラマ館及び関連施設の仮設建築物から常設建築物への変更について、仮設許可の延長は不可であり、現行法規への適合が必要であることを確認しました。例えば、構造においては、静岡県条例による地震地域係数 1.2 が適用されるため、既存建築物の柱、梁等の構造フレームの再利用には詳細な検討が必要になります。
- ・仮設建築物として建てられた既存建築物は、高気密型の建物ではありません。文化庁の「文化財公開施設の計画に関する指針」の文化財の収蔵保存環境などを遵守するためには、内外仕上を撤去し、高気密型の安定した温湿度環境を維持する建築計画が必要になります。そのため、既存建築物の再利用は柱、梁等の構造フレームのみとなります。
- ・既存建築物は平面・天井高さに制約があるため、最適な展示収蔵空間が確保できません。

②文化財公開施設の計画に関する指針 文化庁

本施設に関わる主な指針項目を抜粋しました。

- ・収蔵庫・展示室は、外部の環境からの影響を極力受けにくい設計とする。
- ・地下水や日射の影響を避けるため、地階・最上階・南西に面するなどの位置に配置しないことが望ましい。
- ・収蔵庫の空調は、庫内だけではなく二重壁内の空気層にも行うように配慮する。
⇒機械室の専有面積が大きい
- ・収蔵庫・展示室等各部屋の配置に当たっては、文化財の移動を安全、かつ機能的に行えるように、複雑な動線や段差を避ける
⇒同一建物内に収蔵庫と展示室を配置



③収蔵資料について

- ・徳川記念財団及び徳川宗家が所蔵する資料は約 2 万点あり、全ての資料を展示収蔵することを想定しています。
- ・財団所蔵資料には、重要文化財や刀剣類も含まれます。
- ・現在財団では、令和 6 年夏頃までの予定で所蔵品の全数調査を実施中のため、本施設に収蔵する資料リストは未確定です。
- ・財団が別途実施した調査により、財団所蔵資料の収蔵には 600 m²必要なことが判明しています。

④諸室機能と必要面積について

諸室の必要な機能や面積について、展示室と収蔵庫の内容を抜粋しました。

【展示室】

- ・展示室の面積について明確な基準はなく、施設により差が大きい
- ・類似施設を参考にすると 800～1,000 m²程度を確保している施設が多い
- ・近年整備されている博物館は、展示室を大きくする傾向がある
- ・巡回展に対応するための一般的な面積は、800 m²以上必要となる

〔類似施設の展示室面積〕

・浜松市美術館	676 m ²	・静岡市歴史博物館	1001 m ²
・浜松市博物館	774 m ²	・静岡市美術館	1100 m ²
・宇和島市立伊達博物館（令和9年度開館予定）	790 m ²	・もりおか歴史文化館	1602 m ²
・高知県立高知城博物館	797 m ²	・岐阜市歴史博物館	1738 m ²

【収蔵庫】

- ・徳川記念財団所蔵資料の必要面積は 600 m²
- ・財団所蔵資料に加え、市所蔵資料や将来的な増加に対応するためには、800 m²必要
→最小面積として 600 m²と設定

⑤都市計画法 都市公園区域内の建築可能ボリュームと構造について

- ・都市公園の区域内に建築するため、都市計画法第53条第1項の許可が必要となります。
以下、許可を受けるための基準となります。
- 1. 階数が3以下であること。
- 2. 地階を有しないこと。
- 3. 主要構造部が木造、鉄骨造、コンクリートブロック造その他これらに類する構造であること。

⑥景観について

- ・浜松城長期整備構想における「景観の考え方」では「園内だけでなく、公園（特に天守曲輪）を外部の視点から見たときの見え方についても留意する必要がある」としています。

⑦埋蔵文化財 遺構の保存を踏まえた建築要件 浜松市文化財課

- ・本敷地の建築可能範囲及び掘削深さは、埋蔵文化財の保護を前提とし、大河ドラマ館プロポーザル時の「業務説明資料添付書類（1） 建築要件」によることとなります。

⑧史跡指定の条件 文化庁

- ・国の史跡指定候補地内に恒久的な建築物が存在する期間は、史跡指定の協議は中断となります。
建築物が解体されることになれば、改めて協議を始めることが出来ます。

（3）コストの考え方について

- ・建築物の概算は、近年建設された博物館の単価事例を参照し、各案の施設規模に反映しました。
- ・撤去費の概算は、大河ドラマ館等設計設置保守撤去業務の単価を参照しました。
- ・昨今の建設費高騰を踏まえ、各単価の補正を行いました。
- ・市有施設脱炭素化方針（ZEB Ready 以上）を考慮した施設整備計画としています。
- ・概算金額は、消費税10%込みしました。

(4)ゾーニング図

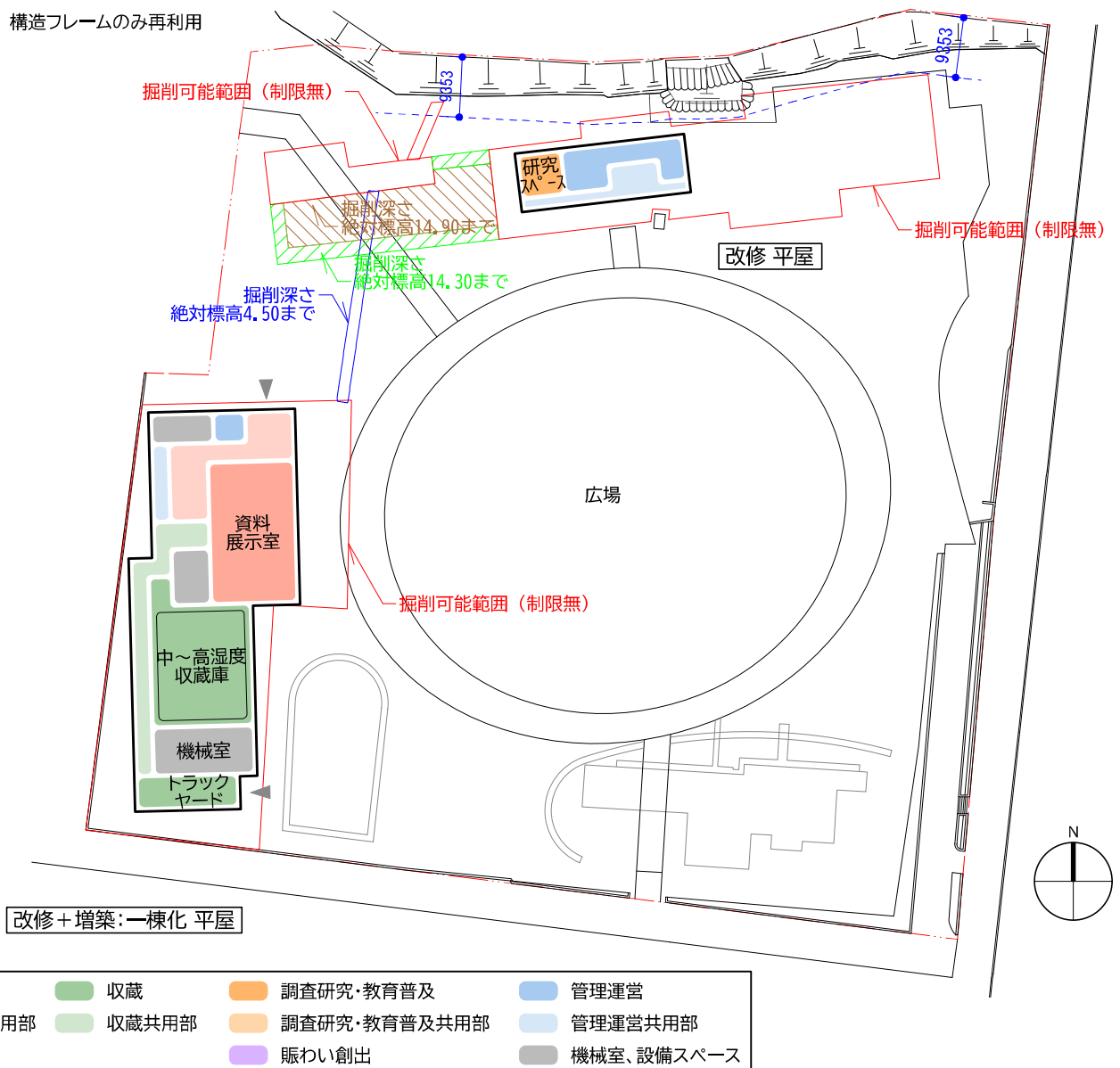
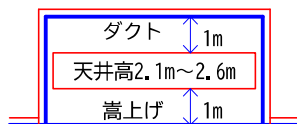
①<全て活用案>「全ての既存建物を活用」

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
○	×	△

<概要>

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は接続（部分的に増築）して1つの建物とし、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用					
ショップ 棟	研究スペース、事務室等として利用					
展示室	資料展示室は最大300㎡、体験展示室は不可または資料展示室を減らして体験展示室に利用					
収蔵庫	最大300㎡					
その他	現状の大河ドラマ館の天井高が4.6mであり、雨水対策等で地盤面からの嵩上げ、天井ダクトの改修工事により天井の低い（2.6m以下）展示室、収蔵庫となる					
延べ面積	1,540㎡	資料展示室	300㎡	体験展示室	資料展示室内 収蔵庫	300㎡
		研究スペース	50㎡	機械室等	230㎡ 事務室等	90㎡
概算費用	23.6億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）					

【参考】大河ドラマ館を改築した際の断面イメージ

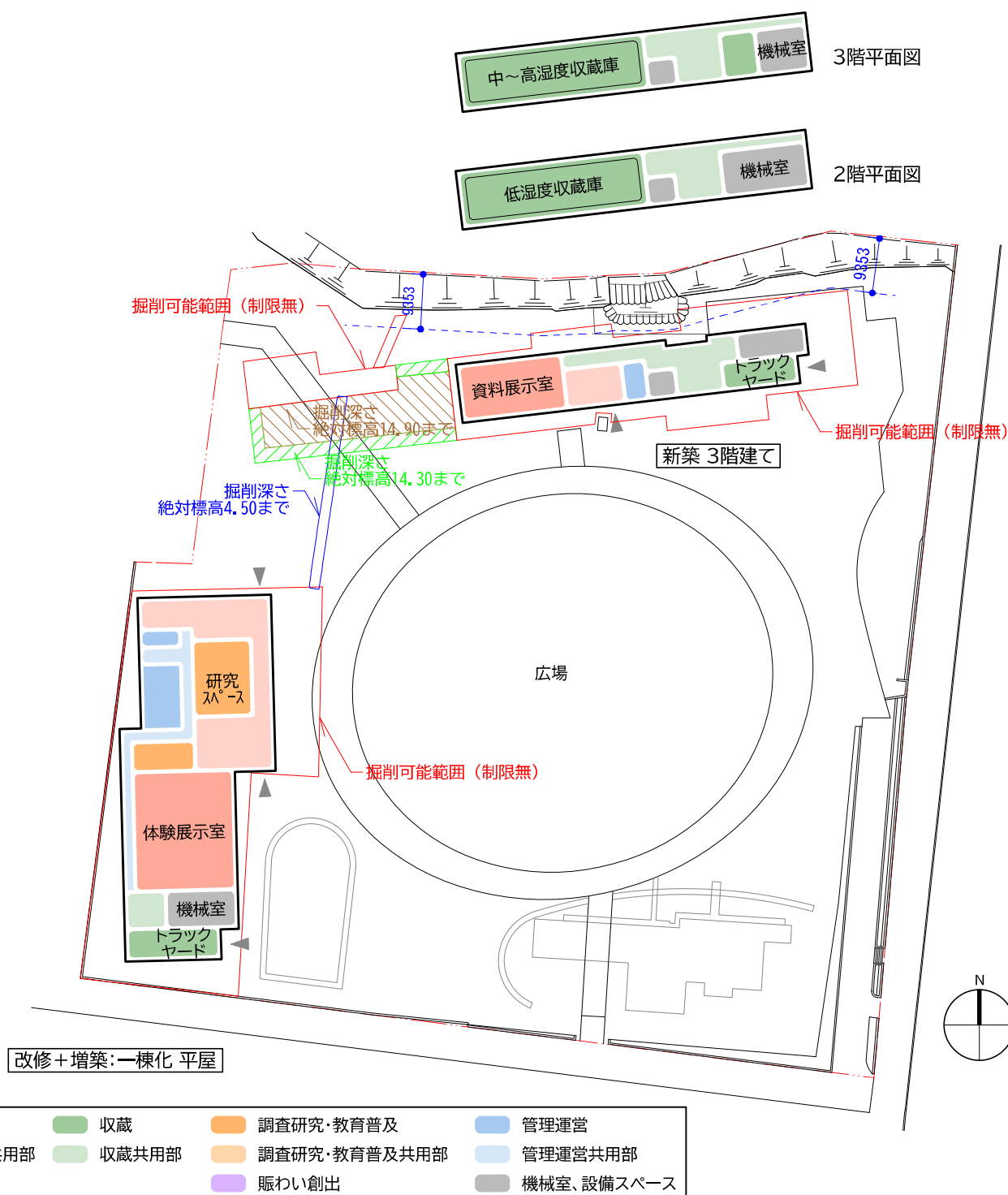


②＜ドラマ館活用案＞「ドラマ館及びオフィス棟を活用、ショップ棟を解体・新築」

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
△	△	○

＜概要＞

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は接続（部分的に増築）して1つの建物とし、体験展示室や研究スペース、事務室等として利用						
ショップ棟	解体し、3階建て1,800㎡程度を新築、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用						
展示室	資料展示室のみで180㎡ （資料展示室と収蔵庫は同じ建物にする必要があるため、新築棟に限定）						
収蔵庫	最大600㎡						
その他	体験展示室は430㎡で収蔵庫と動線が分かれるため資料展示室は不可						
延べ面積	3,100㎡	資料展示室	180㎡	体験展示室	340㎡	収蔵庫	600㎡
		研究スペース	80㎡	機械室等	410㎡	事務室等	90㎡
概算費用	42.7億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）						

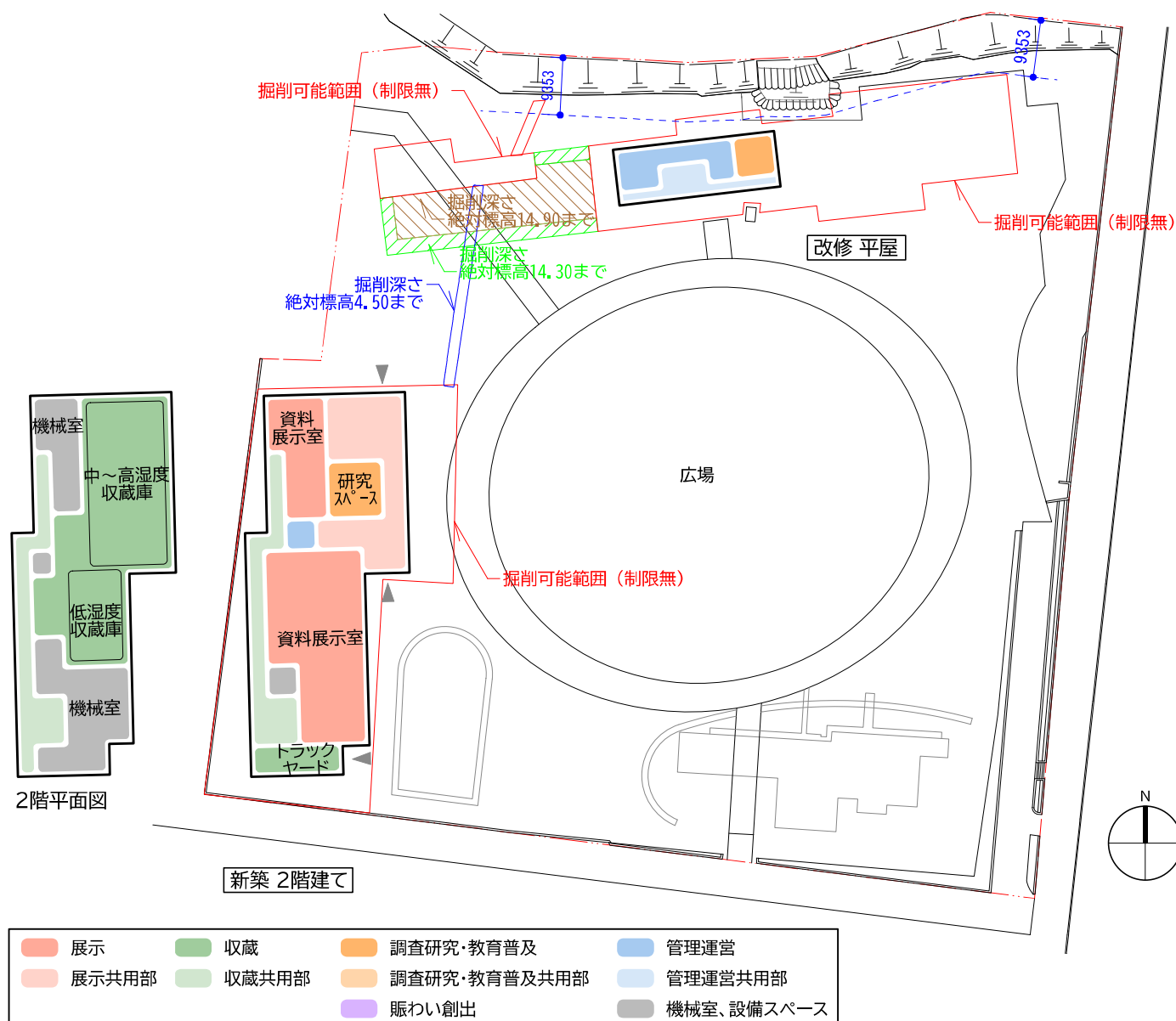


③<ショップ棟活用案>「ドラマ館+オフィス棟を解体・新築、ショップ棟を活用」

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
△	△	○

<概要>

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は解体。2階建て2,600㎡程度を新築し、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用					
ショップ棟	ショップ棟は、研究スペース、事務室等として利用					
展示室	資料展示室440㎡、体験展示室も資料展示室に利用した場合は最大600㎡					
収蔵庫	最大600㎡					
その他	広場から浜松城天守曲輪と天守門が見えなくなる					
延べ面積	2,840㎡	資料展示室	600㎡	体験展示室	資料展示室内	収蔵庫
		研究スペース	50㎡	機械室等	410㎡	事務室等
概算費用	39.9億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）					



ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
×	△	○

ドラマ館	ドラマ館とオフィス棟は解体。2階建て2,600㎡程度を新築し、文化庁指針に則った収蔵庫及び展示室として利用						
ショップ 棟	解体し、3階建て1,800㎡程度を新築、体験展示室や研究スペース等として利用						
展示室	資料展示室600㎡						
収蔵庫	最大600㎡						
その他	広場から浜松城天守曲輪と天守門が見えなくなる						
延べ面積	4,400㎡	資料展示室	600㎡	体験展示室	100㎡	収蔵庫	600㎡
		研究スペース	80㎡	機械室等	580㎡	事務室等	200㎡
概算費用	59.0億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）						

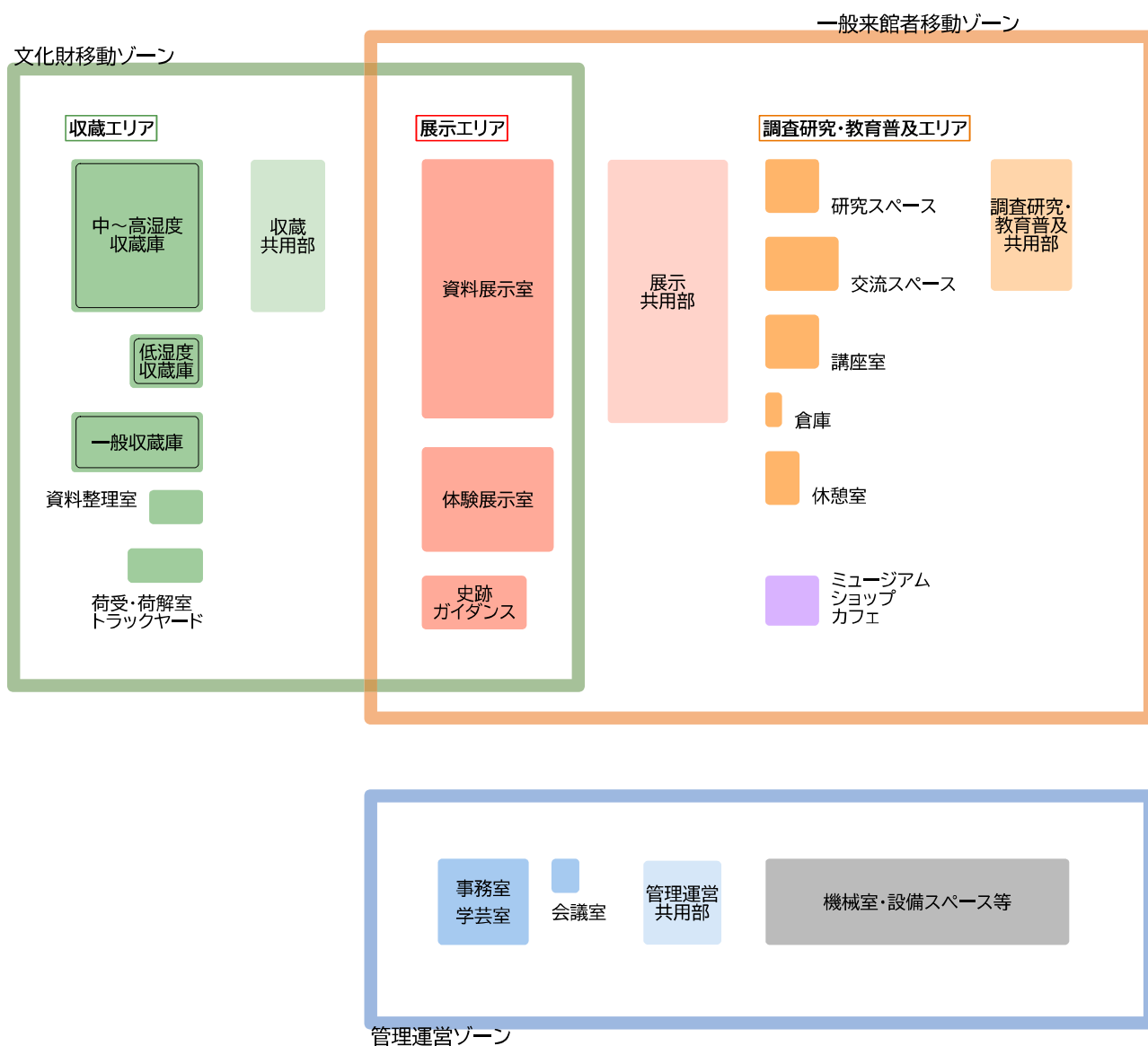


⑤＜参考(望ましい施設規模案)＞

ドラマ館利活用	必要面積	文化庁指針
×	○	○

＜概要＞

展示室	資料展示室800㎡、体験展示室最大350㎡						
収蔵庫	最大800㎡						
その他	敷地選定が必要。						
延べ面積	4,950㎡	資料展示室	800㎡	体験展示室	350㎡	収蔵庫	800㎡
		研究スペース	80㎡	機械室等	660㎡	事務室等	150㎡
概算費用	65.2億円（近隣の博物館の㎡単価を参考に、物価上昇1.23倍・ZEB化を見込む）						



展示	収蔵	調査研究・教育普及	管理運営
展示共用部	収蔵共用部	調査研究・教育普及共用部	管理運営共用部
		販わい創出	機械室、設備スペース

(5) 眺望・景観

「浜松市長期整備構想 4-8 景観の考え方」を踏まえ、本計画敷地に関わる視点場からの眺望・景観の確認を行います。

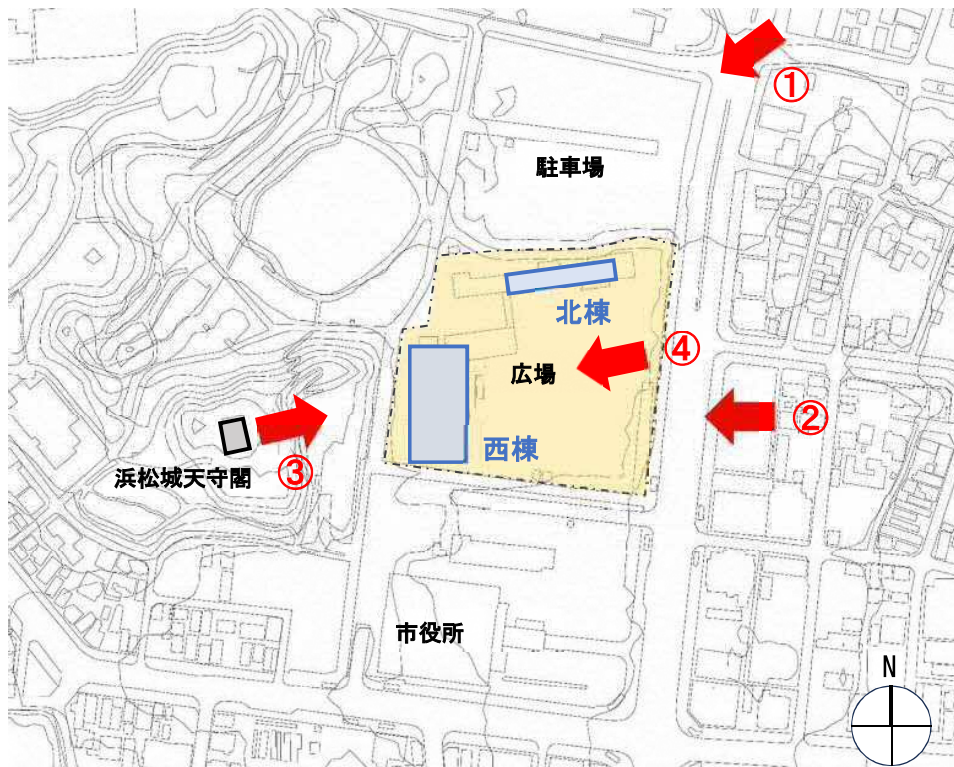
- ① 浜松城公園 北東側から
- ② 浜松城公園 東側から
- ③ 浜松城天守閣から
- ④ 天守閣を正面に臨む二の丸跡/敷地 広場から

各案のボリュームを作成し、景観への影響を確認します。新築の建物高さの設定については、部屋の用途を踏まえ以下とします。

北棟 3階建て H=18.5m

西棟 2階建て H=13.0m

※旧元城小の北側校舎の高さは4階建て H=14.4m



本敷地に関わる視点場

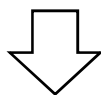
	全て活用案	ドラマ館活用案
① 浜松城公園 北東側から		
② 浜松城公園 東側から		
③ 浜松城 天守閣から		
④ 天守閣を 正面に臨む 二の丸跡/ 敷地広場 から		
コメント	②④既存建築物から高さの変更はないため、東側道路、広場から浜松城天守曲輪や天守門が見える。	①北棟は天守閣への眺望を遮らない位置となるが、眺望や景観への配慮が必要。崖上に建つため、駐車場側に圧迫感を与える。 ②④既存建築物から高さの変更はないため、東側道路、広場から浜松城天守曲輪や天守門が見える。

	ショップ棟活用案	全て解体案
① 浜松城公園 北東側から		
② 浜松城公園 東側から		
③ 浜松城 天守閣から		
④ 天守閣を 正面に臨む 二の丸跡/ 敷地広場 から		
コメント	②④西棟により、東側道路、広場から浜松城 天守曲輪や天守門が見えなくなる。	①北棟は天守閣への眺望を遮らない位置と なるが、眺望や景観への配慮が必要。崖上 に建つため、駐車場側に圧迫感を与える。 ②④西棟により、東側道路、広場から浜松城 天守曲輪や天守門が見えなくなる。

(6) 各案の比較一覧

	全て 活用案 (P. 4)	ドラマ館 活用案 (P. 5)	ショップ棟 活用案 (P. 6)	全て 解体案 (P. 7)	参考(望ましい 施設規模案) (P. 8)
ドラマ館	○ 改修	○ 改修	× 2階建て新設	× 2階建て新設	
ショップ棟	○ 改修	× 3階建て新設	○ 改修	× 3階建て新設	
景観	○	△ 敷地北⇔天守閣	× 広場⇔天守閣	× 広場⇔天守閣 敷地北⇔天守閣	
延べ面積	- 1540㎡	- 3100㎡	- 2840㎡	- 4400㎡	- 4950㎡
資料展示室	× 300㎡	× 180㎡	× 440㎡	△ 600㎡	○ 800㎡
体験展示室	× -	○ 340㎡	× -	△ 100㎡	○ 350㎡
収蔵庫	× 300㎡	△ 600㎡	△ 600㎡	△ 600㎡	○ 800㎡
資料展示室高さ	× 2.1～2.6m	○ 新設	○ 新設	○ 新設	○ 新設
研究スペース	○ 50㎡	○ 80㎡	○ 50㎡	○ 80㎡	○ 80㎡
機械室等	- 230㎡	- 410㎡	- 410㎡	- 580㎡	- 660㎡
事務室等	- 110㎡	- 110㎡	- 110㎡	- 240㎡	- 190㎡
概算費用	23.6億円	42.7億円	39.9億円	59.0億円	65.2億円

- 景観 : 「ショップ棟活用案」、「全て解体案」は、葵広場から天守曲輪が見えなくなる。また天守閣から葵広場も見えなくなる。
- 資料展示室 : 「全て活用案」、「ドラマ館活用案」、「ショップ棟活用案」は、資料展示に必要な面積を確保できない。
- 体験展示室 : 「全て活用案」、「ショップ棟活用案」は、体験展示室を専用で確保することができない。
- 収蔵庫 : 「全て活用案」は財団所蔵品を全て収蔵するための面積が不足しており、他の案についても財団所蔵品以外の資料を収蔵する面積は確保できない。
- 資料展示室高さ : 「全て活用案」は大河ドラマ館棟を改修して、文化財を収蔵可能な資料展示室を整備するため、天井高が2.1～2.6mに制限される。



徳川記念財団の所蔵品を全て収蔵した上で、施設コンセプトを満たしつつ、大河ドラマ館等を最大限活用する整備方法を検討したが、いずれの方法においても、

- ・収蔵庫や展示室として確保できる面積が不足すること
- ・天守閣の景観を阻害すること

などが明らかになったため、大河ドラマ館等の既存建築物及び本敷地を活用した施設整備は難しい